

海外大学の出願プロセスと必要書類

日本の高校を卒業してから海外の大学に進学することは、一部の特別な人だけの進路ではありません。多様化が進む進路選択の中で、海外大学進学は「自分らしい学び」を求めるすべての高校生に開かれた選択肢の一つです。しかし、国内の大学と出願方法が異なることや、具体的な出願方法などを聞いたことがないことから、「難しそう」「自分には関係ない」と感じてしまう方もいるかもしれません。

この記事では、海外大学の出願プロセスと必要書類について、基本的な流れから具体的なポイントまで、わかりやすく解説します。

■ 出願準備の基本ステップ

海外大学への出願には、十分な準備期間が必要です。出願締切から逆算して、通常は1年半～2年前からの計画が望ましいとされています。以下が主なステップです。

1. 志望校のリサーチ：専攻、学費、奨学金制度、入学条件などを調べましょう。
2. 出願要件の確認：必要な英語試験スコア、成績（GPA）、提出書類を確認します。
3. 英語試験の準備：TOEFL iBT や IELTS など、各校が認定する試験を選び、早めに受験しましょう。
4. 書類作成：エッセイや推薦状、成績証明書など、準備に時間のかかるものが多いです。
5. 出願：オンラインで行うのが一般的です。必要な書類を全て提出します。
6. 可否結果の確認と手続き：合格後、入学手続きやビザ申請が必要です。

■ 主な提出書類

出願に必要な書類は大学によって異なりますが、一般的に求められるものは以下の通りです。

・出願書（Application Form）

オンラインで入力することが主流です。Common App（アメリカ）などの共通出願システムを使用することもあります。

Common Application（Common App）ウェブサイト

<https://apply.commonapp.org/login>

・エッセイ（Personal Statement）

自分の志望動機や将来の目標を伝える文章です。大学側が受験者の人柄や考え方を知る

ための大切な資料となります。

- ・推薦状 (Letter of Recommendation)

担任や教科担当の先生などに依頼し、学力や人間性について書いてもらいます。1～3通程度求められることが多いです。

- ・成績証明書 (Transcript)

高校の成績を英語でまとめたもので、GPA (Grade Point Average) に換算されることがあります。

- ・英語能力証明書

TOEFL iBT、IELTS などのスコア提出が一般的です。大学や学部によって必要なスコアが異なるため、事前確認が重要です。

- ・課外活動・受賞歴の記録 (Activity List)

学業以外の活動も重視されるため、ボランティアや部活動、受賞歴などをまとめた書類も重要な資料となります。

■ 国・地域別の特徴的な出願制度

- ・アメリカ：出願の柔軟性が高く、人物重視です。エッセイや課外活動が評価対象になります。

- ・カナダ：大学によって必要書類や締切が異なるため、個別対応が必要です。比較的学費が抑えられます。

- ・イギリス：UCAS という共通出願システムを使用します。学力や志望動機が重視され、1 専攻への集中が求められます。

- ・オーストラリア・ニュージーランド：2 月・7 月の年 2 回入学が可能で、英語条件を満たせば出願しやすいです。

- ・マレーシア：イギリス式教育制度に準拠しています。英語で学べる環境が整い、学費・生活費が比較的安価です。

■ まとめ

海外大学の出願には、国内大学進学とは異なる、準備すべき項目や書類が多く、早期の情報収集と計画的な準備が求められます。しかしながら、プロセスを一つずつ丁寧に進めていけば、決してできないことはありません。留学を通じて得られる経験や成長は、その先の人生においても大きな財産となるでしょう。